

「高山中学校の高山流鏝馬伝承活動の取組」

1 学校名

肝付町立高山中学校

2 学年・人数

全校生徒 216 人，教職員 22 人（計 238 人）

3 日時・場所

令和 4 年 9 月中旬～10 月中旬 16:45～17:30（肝付町四十九所神社参道）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

高山 四十九所神社の流鏝馬

（こうやま しじゅうくしよじんじあのやぶさめ）

(2) 由来

本校では，例年 10 月第 3 週に四十九所神社で奉納されている高山流鏝馬に綱持ちボランティアとして参加している。高山流鏝馬が行われる四十九所神社は伴兼行により永観 2 年（984 年）に創建されたと言われている。流鏝馬が行われるようになったのは，高山城の築城から約 100 年後からとされている。麓郷士の 15 歳の男子が継承してきたが，現在は保存会が中心となり中学 2 年生の男子を射手として選び，継承されている。

(3) 構成等

高山流鏝馬は，国家安泰・五穀豊穰・悪疫退散を祈願する年占いの行事である。流鏝馬当日，射手は凛々しく化粧をして綾藺笠（あやいがさ）をかぶり，直垂（ひたたれ）と行騰（むかばき）姿になる。そして，神馬とともに，3 本の的が立つ全長 330m の馬場を空走りします。その後，3 回疾走して合計 9 本の矢を放つ。9 本すべて命中すると「それ以上」がなくなることから，あえて 1 本外すのがよいとされている。

5 保存会や地域との連携の具体

本校では，例年 1 年生で「流鏝馬講話」の時間を設定している。当日は，流鏝馬保存会と前年度の射手の生徒から流鏝馬にかける思い等を御講話いただいている。また，綱持ちボランティアの際には，やり方についてその都度御指導いただいている。また，後射手や的持ち，巫女，当日のアナウンスなど学校としてもできる限り協力している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

保存会とは日頃からこまめに連絡を取り合っている。また，綱持ちボランティアについては，2 学期に入ってからすぐに，「綱持ちボランティア計画表」を作成し，クラスごとに参加できるように事前に計画を立てるようにしている。部活動生については，部活動の休みの日に参加できるように弾力的に運用し，全ての生徒が参加できるように計画を立てている。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



【綱持ちの様子】



【流鏝馬当日の様子】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【1年生生徒】

綱持ちボランティアを通して、流鏝馬を初めて目の前で見た。迫力がすごく、射手の人も本当に一生懸命頑張っていた。参加することができてよかった。

【教職員】

高山で900年以上続いている伝統行事であるが、このような行事がある学校はこれまで聞いたことがなく、最初は驚いた。しかし、生徒と一緒に体験したことにより、この行事に携わる人々の大変さや情熱について触れることができた。個人的にもこの行事に参加することができたのは、いい思い出となる。これからも何らかの形で参加していきたいと思う。

